



The Y's MEN's CLUB of

★
もりおか



<VOL199.2024.7>

もりおかクラブ事務所：〒020-0021 盛岡市中央通3-7-18 ラ・パルク中央 1階 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

月の聖句 マルコによる福音書 12章 29～31節



心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。

「主題」

国際会長	チャーミング・シェン
アジア太平洋地域会長	利根川 恵子
東日本区理事	山田 公平(宇都宮)
北東部長	大久保知宏(宇都宮)
もりおかクラブ会長	長岡 正彦

「より良いコミュニケーション」
「太陽の輝きと笑顔」
「ワイズの方向性を見極める」
「クラブのミッションを育てよう」
「リーダーの志を、全力で支えよう」

会長	長岡 正彦
副会長	山口 貴伸
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	東森 聡(たもり)
メネット	井上 優子

令和2024年8月納涼例会
日時、場所 8月24日(土)
18時～20時 (第4土曜日)

ご案内は、別途いたします。

会長巻頭挨拶



長岡会長

みなさまこんにちは、長岡でございます。新年度の会長を務めさせていただきます。直前会長の三田メンからバトンを受け取り、もりおかクラブの発展に微力ながら力を注ぎたいと考えております。

盛岡 YMCA は経営が安定してきておりワイズが直接支援しなくてもよい状況です。

しかしながら、盛岡 YMCA を支えているのは多くのボランティアリーダー達です。リーダー達は盛岡 YMCA の事業に参加して、集う子供達とともに日々成長を続けています。もりおかクラブはそんなリーダー達を全力で支援します。リーダー達が力の限り活動することは、直接盛岡 YMCA の発展に繋がります。子供達も楽しく、健やかに成長していけるのです。その原動力、リーダー会を支え、活動しやすい環境を造っていきます。活動にはお金がかかります、ウェルネスプログラムの費用は、直接親御さんがまかなっていただいておりますが、リーダー会の新しいTシャツ、トレーナー、防寒着などはリーダーの手持ち金で準備しておりました。ここにメスをいれて、ワイズとリーダー会で協力してファン

事業により資金を調達、また全国の YMCA プログラムに参加する費用も捻出していきたいと考えております。具体的にはさんさ踊りで、人権カルタのグループが店を開きます。学園祭は盛岡大学、県立大学が出店します。そして今年より、わかしお石鹸の復活を目指します。SDG'sの14番、「海の豊かさを守ろう」、海を守るためには内陸から川や湖の環境を守ることが大事です。24時間で自然に帰るわかしお石鹸の普及に努めましょう。今年1年皆様、よろしくお願い申し上げます。

7月キックオフ定例会のご報告

2024年7月20日(土)、アイーナにて開催。参加者、三田、大関、長岡、濱塚、井上、井上優子、加藤(敬称略)以上7名。ゲストリーダー、渡邊夏生さん(チューバ)、山口満穂さん(しらたま)、滝澤里菜さん(グラ)、野崎はなさん(はなまる)以上4名、全11名で開催しました。

キックオフ例会を開催いたしました。長岡会長の主題は「リーダーの志を、全力で支えよう」です。巻頭言でもお話ししたように「リーダーの活動を支えて行こう」というものです。ここ数年「リーダーを」と言って活動して来ましたが、はっきりと言葉に出して



はなまる しらたま

ーダーを支えると明記したのは初めてです。開会点鐘と閉会点鐘は「はなまる」と「しらたま」、元気よく鳴り響きました。

もりおかクラブの過去の出来事を振り返り、功労者に感謝する例会になりました。2007年2月、もりおかクラブ発足、初代会長は井上修三さん。2008年4月、芦屋クラブ様とDBC締結。2009年7月体験農場開始。2011年3月、東日本大震災発生、全国のワイズから支援を受ける、芦屋クラブ様からの冷蔵庫は3日で設置完了。2013年6月、東日本区大会を主催、「最優秀クラブ」、「最優秀ブリテン」受賞。2014年12月、岩国みなみクラブ様とDBC締結。など改めて、歴史を振り返りました。歴代の会長は、井上メン、大関メン、長岡メン、古澤メン、山口メン、三田メン、各歴代会長は複数年にまたがり会長を務めていただき、クラブを支えてくださいました。あり

がとうございました。

さあ、新年度の始まりです。もりおかクラブの発展を願いクラブ運営に奔走しましょう。明るい未来は見えています、多様な要素を1つずつ積み重ねて、クラブ発展のために突き進みましょう。みなさま、どうぞよろしく願いいたします。



キックオフ例会、7月集合写真 大関さん遠近感がおかしい、大男みたいだ

近況を語り合いましょう、1分スピーチです。

大関メン：自宅がある松園の中央公園に熊がでました。夏祭りの会場になるところです。人里に出てくるのが身近に感じられて怖いなと思っています。

濱塚メン：先日の日曜日、加藤さん、上条さん。私と3人でオーガニックの畑に行き野菜をたくさんいただきました。焼きそばも販売してきました。濃い1日を過ごしました。

渡邊夏生さん(チューバ)：大学に入ってから10kg太りました。食べすぎと運動不足でしょうか、改善しなきゃ。

井上メン：歴史は後を飾ります。これだけやるのは大変です。ブリテン発行は苦勞が多いです。長岡さんがやってきてくれたから記録が残り、ふりかえられます。ありがとうございました。

滝澤里菜さん(グラ)：「ビリケン」と「つよぼん」の結婚式がありました。二次会に出席しましたが、幸せのおすそ分けをいただけてきました。「ブイ」と「さる」のプログラム進行が、「これがリーダーか」と感心しました。お手本にしなきゃ。

長岡メン：そのパーティは、1グループ6人でじゃんけんをしてあいこになった速さを競うゲームがありました。私は全員にグーを出すように指示しましたが、中の1人がパーを出して勝

ったと喜びました。まったくよく話を聞けよな。

三田メン：11日木曜日に、大久保北東部長、山田理事から誘われ宇都宮クラブの例会に参加してきました。ユース事業主任に就きました。宇都宮クラブはユース事業担当です。

加藤メン：疲れています。7月に入って作付けの連続です。久しぶりに雨の予報がでていましたので、休めるなと思っていたら、天気予報が外れて、好天になりました。豆の花が2週間早くさいています。今後どうなるかわかりません。

山口満穂さん(しらたま)：中学校の教育実習、教員採用試験、キャンプの準備、しばらくぶりの休みにになりました。明日から友達と仙台に旅にでます。教育実習中にチェロを弾きました。5年ぶりに弾きましたが、手が動きました。かんでうでした。

井上優子メネット：引っ越しが終わり、孫は1人暮らしを始めました。話し相手がそばにいなくなり淋しさを感じています。

野崎はなさん(はなまる)：先月末、卒論の資料つくりのため、「田んぼの学校」というイベントの養成指導者講習に参加しました。山形で開催のため仙台から仙山線で東根まで行きました。奥羽山脈を横断する路線は怖かったです。

「ブリテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

7月の出席率	5/15	33 %	ゲスト 4 名	ビジター 0 名	メネット 1 名		
メーキャップ	0	名		7月切手	33g	g	累計 105 g
7月のにこにこ	0	円	累計 0 円	焼きそば	0	円	累計 0 円
7月 石鹸	0	円	累計 0 円	りんご	0	円	累計 0 円
7月 献金	0	円		ファンド合計		円	

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

7月のハッピーバースディ 7/18 井上優子メネット お誕生日おめでとうございます。

リーダーとともに歩む、加藤メン

『畢竟、PGSは有機農業を核とした地域づくりである』

オーガニック雫石 南部片富士印 加藤淳



加藤 淳メン

皆様、いつもお世話様になっております。私は有機農業を営む農家です。最近のトピックとして、リーダー達に畑を貸して、リーダー達が栽培をした雫石黒千石という大豆が焙煎加工され、リーダーコーヒーという名で商品化されました。本来のコーヒーではないのですが、ノンカフェインのグレインコーヒーとして人

気で、あっという間に売り切れました。

有機農業とか有機農産物という言葉の皆様は聞いたことがあるでしょうか。有機農業の推進に関する法律では「農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減させた農業生産の方法を用いて行われる農業」であり、この農法を用いて栽培された生産物が有機野菜(果樹を含む)です。

私はオーガニック雫石というグループに属しています。オーガニック雫石は日本で唯一の参加型有機認証制度の認定団体です。この認定は国が行うものではありません。IFOAM-Organics Internationalが行います。IFOAMは国連とも密接な関係にある、世界の有機農業運動を主導しているNGOです。IFOAMが提唱する有機認証制度には2つあり、1つは第三者認証制度として日本でも法整備され、有機JAS制度となりました。そして、もう一つがこのPGS=参加型認証制度です。つまり、有機JASとPGSは、血を分けた兄弟のようなものなのです。

私たちは日本の法律の外におりますので、販売時に「有機」と名乗ることはできません。ですが、PGSには有機JASにはない優れた特徴があります。IFOAMのPGSの定義です。「PGSは地域に焦点を当てた品質保証システムである。それは信頼、社会的なネットワーク、知識の交換の基盤の上に、関係者の積極的な参加活動に基づいて、生産者を認証する。」つまり、地域の中で、その関係者の参加活動に基づいて認証するシステムです。ここでいう関係者とはオーガニック雫石では会員にあたります。オーガニック雫石の会員構成は生産者7名非生産者20名。消

費者ではなく非生産者とよんでいることにご注意ください。

この会員が、各生産者の申請書類を精査し、書類に嘘偽りがないかを実際に圃場に行き確認し、その生産者は有機認証を受けられます。この手続き自体は非常に簡便です。

「参加」とは、その地域に住みまたは事業を行うなどの地域に関係する方であれば誰でもが参加する資格があるということです。そもそも農業は食料を生産するだけの機能ではありません。CO₂の吸収などの炭素固定、生物多様性の維持、里山の景観保全などの多面的な役割を担っています。とくに有機農業は環境に負荷をかけない分この側面が色濃く出ます。自然環境や生活環境の保全は、地域に関係する方にとっての共通の利益、つまり公共財です。有機農業は関係者にとって平等に利益を与えているということです。したがって、その地域の関係者であれば、有機農業の認証について行う権利があり、また、それを自分事として捉えて厳しい目で見ることができます。PGSにおいてはその地域の関係者は生産者であろうとなかろうと参加する資格があるのです。例えば冒頭申し上げたリーダーコーヒーに至る活動は一言でいうと「食育」です。この活動を通して食と農、そして経済を学びます。こういう経験はリーダーにとって食と農と経済を身に染みて考えるよい経験になります。そして、今後社会に出たときにはその経験が生きてきます。これがPGS活動です。活動を通して、有機農業とは何かを体得し、栽培は詳しくは解らないとはいえ、有機農業を知ることになります。そして、この過程で関係者相互に信頼が生まれます。これが、PGSにおける公正性を生む原動力です。もちろん、オーガニック雫石はこの活動だけではありません。会員各々が、自分の得意分野をもって、地域の風土、文化を維持発展させるためにテーマをもち、それに会員が肉付けをして実践していきます。つまり、PGSとは『畢竟、有機農業を核とした地域づくり』なのです。ぜひ、皆様も「参加」してください。

加藤メンは、自身の畑でリーダーと共に大豆の生産を行っています。秋には、リーダーとサポートプログラムの子供たちを招いて、焼き芋大会などを開催、ほぼ都会育ちのリーダーは貴重な体験と経験を加藤メンから学んでいます。リーダーと共に歩むのもリーダーサポートの具体例です

子供の人権を考える。畠山メン(南部富士法律事務所)

子供の人権プロジェクト子供の人権かるたを作る



畠山メン

畠山メンが、ゲストで人権について卓話をしていただき、もりおかクラブに「人権の尊重」という思いを植え付けてくれました。卓話という一過性の講話を聴くだけに終わらないのが、リーダー達の高い志でした。

「子供の人権」という考え方、思いにシフトして「子供の人権標語」を造ろうと、YMCAの子供たちを巻き込んで多くの標語を集めました。さらに、この標語を使用してかるたを創ろうと、今度は高校生の美術部に依頼して絵札を作成しました。絵札と読札をそろえて、かるたの原型が完成しています。次は、印刷業者に発注して子供の人権かるたを完成させるだけで

すが、業者に発注するお金の問題が発生しました。そこでグループはさんさの出店で資金調達をしようとしています。

小河原悠花(岩手大学教育学部4年)ぶんちん



ぶんちん

みなさまこんばんは、ぶんちんこと、小河原悠花と申します。今日は子供の人権プロジェクトの活動をご紹介します。

私たちに学びの機会を与えて下さった関係者の皆様、岩手弁護士会子供の権利委員会の畠山先生に心より感謝申し上げます。

このプロジェクトは、リーダーと子供達が実際に関わりながら楽しく人権について学んで行くのが狙いです。子供の人権に対して大人の意識が低いのが現状です。盛岡YMCAの様々なウ

エルネス事業において私達も多くの子供達と接触してきていたわけですが、「子供の人権」という考え方がまったくありませんでした。今回の人権プロジェクトで、子供達を取り巻く環境、学生たちの生活に対する見方がかわりました。リーダーと子供たちが、関わりながら、楽しく人権について学んで行く事が狙いです。具体的には子供の権利に対する標語や絵画を作成していただき、人権かるたを作るワークショップを開催するのが目標です。期間は2022年度から2024年度までの3年間を設定しています。

子供の権利を補足します。1989年国連総会にて採択された「子供の権利条約」からきています。日本ユニセフ協会によると、この条約は「子供の基本的な人権を国際的に保障するために定めた条約」です。ここでの「子供」とは18歳未満の児童を指し、「大人と同様1人の人間としての人権を認めるとともに、成長の過程

日本の環境を守るためには「わかしお石鹸」です。

もりおかワイズメンズクラブ 長岡正彦

全国の漁業協同組合で販売しているわかしお石けんです。天然の成分だけで作られた石けんで、24時間で自然界の成分に分解し、川や海を汚しません。水生生物の奇形や死滅、赤潮などの発生の原因とされる、「合成洗剤」の使用を止めて、豊かな川や海を守ろうと開発されました、環境にやさしいエコ石けんです。

ただ「エコ」というだけではありません、抜群の洗浄力を発揮し、



特に野球やサッカーのユニフォームやワイシャツの襟、袖口の頑固な汚れに使用してみてください、納得の汚れ落ちです。この石鹸は当初、運動部のお子さんを持つ、親御さんに抜群

の汚れ落ちの実力をアピールして拡販に勤めていきましたが、この石鹸の能力は、「環境を汚さない。」という事です。高級オイルのパームオイル(ヤシ油)を主原料としていまして、使用したお母さん方から、「手荒れがない」という評価は当初からいただいております。

編集後記

今月は「発達障害を知ろう」の特集はお休みにします。

もりおかクラブとリーダー会との結びつきの過去の記事を集めてみました。加藤メンと畠山メンの活動はより具体的なリーダーとの結びつきです。水性生物が普通に住み着いている田んぼに裸足で入り、泥だらけになりながらの田植え作業、カエルやどじょうの出現に黄色い声を張り上げながらの農作業の体験。枝豆の収穫では虫の登場に、ウォーと叫ぶ姿。若者のリアクションは非常に楽しいです。

人権カルタのリーダー達はどんどん活動が変化して、意識の高さを感じました。この子らが実社会に出て、日本を支えていく将来を考えると、任せて安心です。

で特別な保護や配慮が必要な子供ならではの権利」も定められています。日本では5年後の1994年に批准しました。日本は世界よりも遅いスタートになりました。

今年、子供達から標語を集め、選考し発表するところまで実施しました。弁護士先生方による人権セミナーにてリーダー達が人権について学ぶところからプロジェクトが始まりました。人権について学んだ私たちは、子供たちに「子供の権利」について知ってもらおうかと、話し合いを行いました。堅いイメージがあるこの言葉を少しでも身近に感じてほしい。子供たちに伝えて行くのと同時に、自分たちも学んで行きたい。と、本当に思いました。手軽にかつ楽しく学んでほしいという思いから、子供たちから集めた人権標語や絵を用いた「人権かるた」を作ろうという事になりました。

わかしお石鹸しか使用していない岩手県宮古市重茂地区、(おもえ)は30年前から、海と川を守ろうと、合成洗剤を追放しております。3.11の津波の写真を見てびっくりしました。



重茂の津波、マリンブルーです。

漁港の堤防を越える津波の写真なのですが、津波の色がマリンブルーなのです。いままで多くの津波の写真や映像が配信されてきましたが、どの津波の映像も真

っ黒なヘドロの津波でした。同じ宮古市でも、市役所を襲った津波の映像と比べてもその色は、漁港の堤防を越えた津波とは全く違いました。わかしお石鹸だけ使っている重茂の海は津波もきれいでした。津波の被害は相当なものでしたが、重茂ではヘドロのかき出しの格闘がなかったのです。わかしお石鹸はもりおかクラブのファンとして機会があるたびにワイズの方々に拡販と使用をお願いしてきましたが、もっと使命感を持って拡販に努めねばと思った次第です。海だけではありません、日本には守るべき美しい湖がたくさんあります。みなさん環境を守りましょう、合成洗剤を使い続けると海が、湖が、死んでいきます。どうぞワイズメンズクラブの方々、わかしお石鹸をお使いください。日本の環境を守るのは「わかしお石鹸」です。

わかしお石鹸の拡販にはクラブ会員のご協力が絶対に必要です。頑張りましょう。

リーダーOBの「つよぼん」と盛岡YMCAの職員「ビリケン」の結婚式と披露宴が15日にありました。リーダー出身のカップルは何組目になったでしょう。とてもいいことです、心からお祝いをいたします。

